

項目	内容
名称	コンフリー、ヒレハリソウ [英]Comfrey [学名]Symphytum officinale.
概要	<p>コンフリーは、ヨーロッパ原産のムラサキ科ヒレハリソウ属の多年草。草丈約1 mまで生長し、5～9月に白、紫、クリーム色、淡紅色などの花をつける。根、根茎、葉を外用や食用で用いてきた。通常のコンフリー (Symphytum officinale) の他、プリックリーコンフリー(Symphytum asperum)、ロシアンコンフリー (Symphytum x uplandicum) なども区別されず、コンフリーと称されることがある。</p>  <p>写真提供: 広島大・医歯薬・生薬学研究室</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンフリー (ヒレハリソウ) 根、葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 <p>食品としての販売等は禁止されている。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・根や葉にアラントイン、ピロリジジンアルカロイドを含む (23) (29) (33) 。その他、タンニン、トリテルペン、コーヒー酸、カロテンなどを含む (81) 。

分析法	-
有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	RCT ・腰痛や背部痛の患者120名（18～60歳、ドイツ）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、コンフリー根抽出物軟膏を4 g×3回/日、5日間塗布したところ、痛みの自覚 (VAS) が減少した (PMID:19460762)。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
- (23) 天然食品・薬品・香粧品の事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳
- (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シェヴァリエ
- (58) The Complete German Commission E Monographs
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).
- (81) Herbal Medicines Third edition (Pharmaceutical Press)
- [\(PMID:19460762\) Br J Sports Med. 2010 Jul;44\(9\):637-41.](#)
- [\(PMID:3115370\) Br Med J \(Clin Res Ed\). 1987 Jul 18;295\(6591\):183.](#)
- [\(PMID:2322120\) Arch Surg. 1990 Apr;125\(4\):525-7.](#)
- [\(PMID:19350428\) Swiss Med Wkly. 2009 Apr 4;139\(13-14\):210-1.](#)
- [\(PMID:2565458\) Lancet. 1989 Apr 29;1\(8644\):963-4.](#)
- [\(PMID:3972224\) Gastroenterology. 1985 Apr;88\(4\):1050-4.](#)
- [\(PMID:2103401\) J Gastroenterol Hepatol. 1990 Mar-Apr;5\(2\):211-4.](#)
- (102) 厚生労働省 「シンフィツム (いわゆるコンフリー) 及びこれを含む食品の
取扱いについて」
- (103) 厚生労働省 「シンフィツム (いわゆるコンフリー) 及びこれを含む食品の取
扱いについて (その2)」